

《浮かび上がる古代の暮らし》

6月3日(月)から始まった発掘調査も、はや2か月が過ぎました。旧千曲川左岸の緩い斜面地に広がる南大原地区では、今から約2,000年前の弥生時代中期の集落と、今から約1,100~1,200年前の平安時代の集落を調査しています。

平安時代の集落は、溝を巡らせて土地を区画し、方向を揃えた竪穴建物跡がみつかりました。区画溝は、集落の境を示している可能性があります。

《今日に繋がる日常の軌跡》

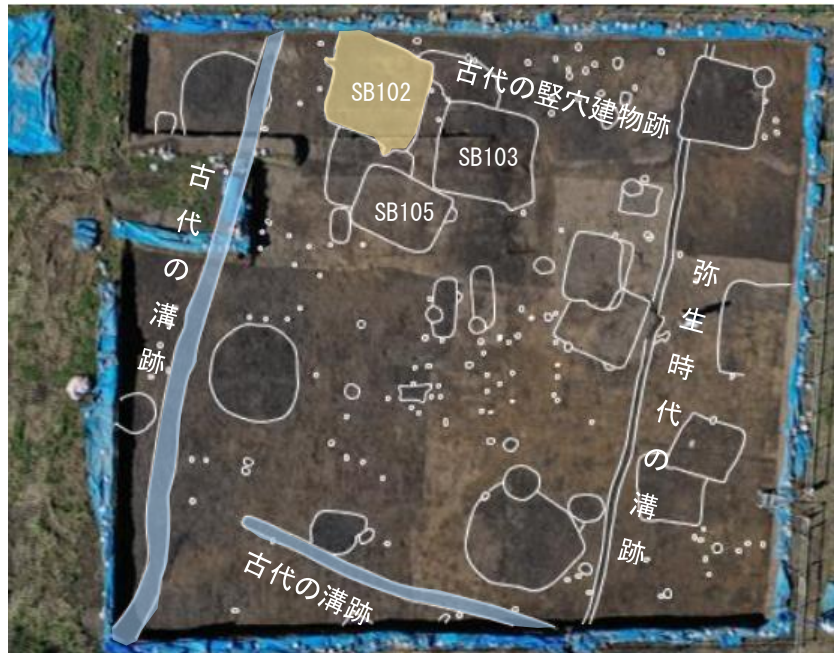
SB102(平安時代の竪穴建物跡)は、一辺約5mの規模を持ち南側隅にカマドを備えています。

この竪穴建物跡からは、灰釉陶器の皿を転用した硯や、鉄製紡錘車(繊維を紡ぐ道具)、耳皿がみつかりました。耳皿とは、皿の側縁を対称的に折り曲げるつくりをした土器で、箸置きに使われたと考えられています。

大河ドラマ「光る君へ」では、夫の藤原宣孝と主人公まひろ(紫式部)が、食事の際に箸置きとして耳皿を使用していました。ご覧になった方もいるのではないのでしょうか?

耳皿は、緑釉陶器でつくられ始めました。当時、緑釉陶器を使用できるのは身分の高い役人のみでしたが、その後、土師器や黒色土器などでも耳皿がつくられるようになりました。今回みつかった耳皿は黒色土器ですが、塩尻市吉田川西遺跡でみつかった緑釉陶器の耳皿は、国の重要文化財に指定されています。

みつかったお宝は、文房具、食器、箸置きなど現代を生きる私たちにも馴染み深いものばかりです。今から約1,100~1,200年前の人々の日常に思いを馳せていただければ幸いです。



南大原地区 遺構検出状況(橙色がSB102 古代の竪穴建物跡、南西から)



密集する竪穴建物跡(SB102、103、105、南東から)



SB102出土 黒色土器の耳皿、北西から



塩尻市吉田川西遺跡出土 緑釉陶器の耳皿

《広大な大地に眠る遺跡、次々と目覚める》

南大原地区から微高地（現リンゴ畑）を挟んだ北西側の地域ではトレンチ掘削による確認調査が進んでいます。
逆川・北大原・舞台・鍋久保の4地区のうち、現在は、逆川・北大原・舞台地区の調査をしています。

【逆川地区】

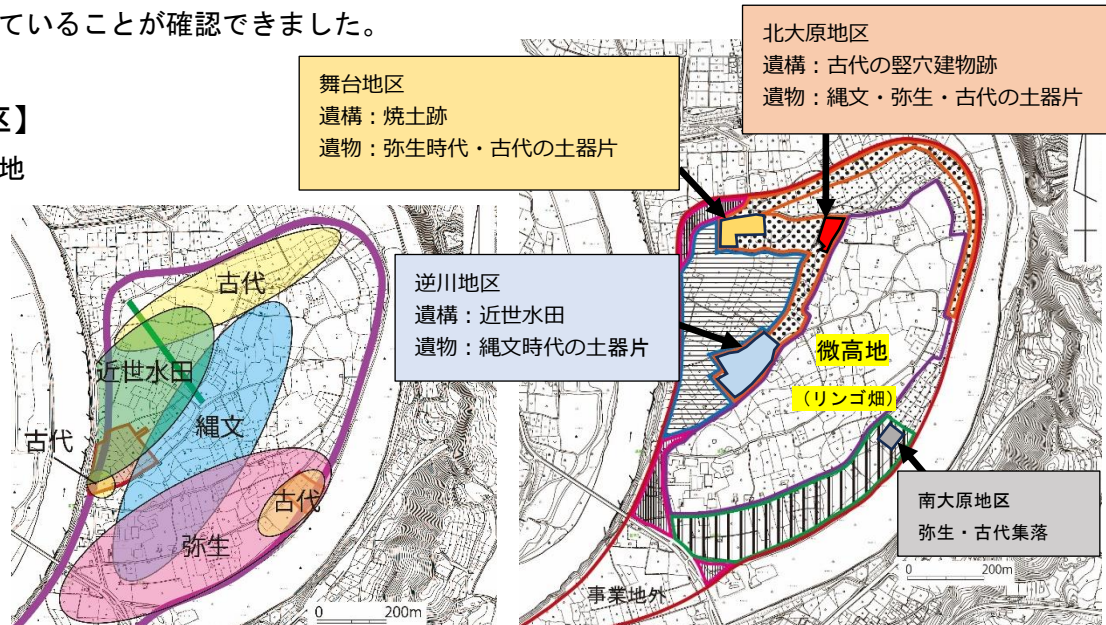
掘削したトレンチの断面を見ると、現在の地形と同じように南東（リンゴ畑を営む微高地）側から北（現千曲川）側へ傾斜する地形が確認できました。洪水層が厚く堆積し、安定した土地ではなかったようです。一部では、今から約4,000年前の縄文時代後期と思われる土器片2点がみつっていますが、該当する時代に人間が活動した痕跡はみつかりません。昨年度の調査成果から想定すると、逆川地区の南東側（リンゴ畑を営む微高地）に縄文時代の遺構が広がっている可能性があるため、微高地から流れてきた縄文時代の土器が低い場所に溜まってみつっている可能性が考えられます。

これまで、近世水田の範囲を逆川地区境の市道までと考えていましたが、湧水点が市道の南側で確認され、近世水田が湧水点まで伸びていることが確認できました。

【北大原地区・舞台地区】

この地区の堆積は、微高地を挟んだ南大原地区と似ており、安定した大地に人々が活動していた痕跡がしっかりと確認されました。北大原地区の最北部、舞台地区の最西部双方から調査を行い、挟み撃ち作戦で遺構・遺物の有無を調査しました。その結果、微高地から現千曲川にかけて、東西方向に人間が活動していた痕跡が見えてきました。北大原地区からは、平安時代の竪穴建物跡が4軒、舞台地区からは焼土跡が検出され、それぞれ平安時代の土器片がみつかりました。南大原地区でみつっている集落とどのように繋がっていくのか、いかなのか。この地に眠る遺跡の全貌が、少しずつ明かにされています。

続報をお楽しみに！



想定される各時代の領域とR6年度調査区全体図



舞台地区調査の様子
約2mの洪水堆積層

いよいよ・・・現地説明会開催！！

日時：8月10日(土) 10:00～15:00

場所：南大原遺跡発掘調査現場

持ち物：歩きやすい靴、十分な水分、帽子など

暑熱対策をお願い致します。

内容：南大原地区の発掘現場見学、出土遺物展示会

「生の発掘調査現場」が見れる大チャンスです！

皆様のご来跡をお待ちしております！

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

電話：026-293-5926

担当：上田/水科/町田/山田/黒岩

支援業務（公社）日本文化財保護協会

小田/南田/石川/千葉/入江/新谷/

浅間/佐藤/生駒/水谷/山中

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P：<https://naganomaibun.or.jp>